

こんなお悩みありませんか？

自殺、いじめ、不登校、貧困、虐待…
生徒たちの困難が現実化する前に未然
に予防したい



「気になる子」がいる…
でもどう対応すればよいか、どうやって
社会支援につなげればいいのかかわから
ない



こどもの学習支援も生活課題対応も、
全て担任の先生ひとりが抱えている



こどもが主観的に発するSOSを拾い上
げるシステムは導入したけれど…
もれなくキャッチできてるのか不安



その課題、YOSSが解決します

YOSSは、AIクラウドを活用しながら、学校現場で散在する客観的データを用いて児童生徒
全員をスクリーニングし、潜在的に支援が必要なこどもを可視化、こどもたちを身近な地域
資源等の支援につなげる早期発見・早期ケアの仕組みです。

POINT 1 全員をみる。
だから未然に防げる。

全数把握・継続的観察で潜在的リスクをキャッチ。
だれも、いつも、とりのこさない。

POINT 2 “打つべき一手”がわかる。

推奨アクションのサジェスト機能を内蔵。
こどもひとりひとりに対し、効果的な関わり方を
提案。

POINT 3 チームをつくる。
チームでとりくむ。

全ての児童に対し、スクリーニング会議・校内
チーム会議で対応。300校以上の実証研究をも
とに開発した組織能力向上の機会を提供。

POINT 4 業務負担を軽くする。

教育現場のオーバータスクを解消するクラウド
ツールの導入と専門家の関与。チームとして協
働することで心理的負担も軽減。

既に46自治体337校以上に導入実績があり、具体的な効果として、不登校児童生徒数が1/3に減少、遅刻早退などが7割改善、諸費滞納が8割改善という自治体が生まれています。

問い合わせ

大阪公立大学 山野則子研究室

✉ yoss.implement@kodomomiraishakai.org

検索

YOSS

YOSS公式HP、SNS公開中！

<https://sites.google.com/view/kodomomiraishakai>



大阪公立大学



一般社団法人
こども未来社会研究所

YOSS クラウド

大阪公立大学とパナソニック・コネクト株式会社は、すべての子どもたちの潜在的なリスクを早期にキャッチし適切な支援につなげるYOSSの機能をクラウド上にシステム構築した、「YOSS クラウドサービス」を2022年12月1日から全国の小中学校などの教育現場に提供開始しました。



<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/yoss-cloud-service/top>

YOSS クラウドサービス Yamano Osaka Screening System



※グッドデザイン賞2023受賞

大阪公立大学山野研究室は、実際にYOSSを導入した小中学校に対し、YOSSの導入研修を提供するとともに、YOSSの実施に不可欠なスクリーニング会議と校内チーム会議の構築・運営を、YOSS及びスクールソーシャルワークに精通したコーディネーターが出張サポートします。

YOSS サポート



本サポートを受け、「気になる子」の抽出から実際に支援につなげるところまでを学校内外の人的リソースをフル活用したチーム体制で行うことで、YOSSが真に機能し、リスクある子どもの抽出精度、支援の実施率と実施速度が大幅に向上します。また、本サポートにより、文部科学省の政策目標にも掲げられる「チーム学校」を実現することで、学校組織の基礎能力向上にも貢献します。

YOSS マイスター 講座

YOSSマイスター講座は、YOSSの効果を最大化し教員の負担軽減と教育現場の諸問題の改善を推進する「YOSSマイスター」を養成するプログラムです。年2～3回を目安に提供され、YOSSについて学び、2つの会議を効果的に進めるファシリテーション技術を身につけて、チーム学校と子どもの未来の可能性を拓くことを目指します。



【児童生徒への効果】

自らの苦境を認識していなかったり、SOSの声をあげることが困難であっても、手を差し伸べてもらいやすくなります。「気になる」を超えて、「実際に支援される」まで進む可能性が格段に上がります。

【教員への効果】

児童への理解が深まり、支援が必要な生徒児童への対応がスムーズに行えます。「チーム学校」が組織され、担任に対する丸投げや抱えこみが解消され、教員と学校全体の能力がともに向上します。

【SSW/SCへの効果】

リスクあるこどもの発見と支援を迅速に行えることで、重大事案の予防につながります。教育現場と福祉行政の連携や、地域資源の開拓も効果的に進められ、社会的役割がより広く果たせるようになります。

【自治体への効果】

こどもたちの課題やリスクに関するデータがクラウドに蓄積され、データを活用した研究結果の提供も可能なため、公共政策としての教育支援・こども家庭支援等に役立ちます。

こどもの未来共創サミット2026 冬

Children's Future Co-creation Summit

-2026 Winter-

2.17 2026
TUE
13:00-16:30

場所/I-siteなんば
(大阪公立大学)

教育/福祉業界の
産官学 連携
プラットフォーム

イベントプログラム

2026冬全体テーマ

こどものためにつながる：学校と地域・企業

地縁社会の希薄化や附属池田小事件の反動などを経て、ともすれば社会に対し閉鎖的な存在となってしまう学校。一方で、「地域とともにある学校」への転換が目指された“コミュニティ・スクール構想”の法定化から10年弱、部活動の民営化なども進み、より一層学校と地域との連携が求められています。このような世の中の流れの中で、こどもを社会全体で見守り、育てる社会を実現するために、学校と地域の関係性を確認し、学校が地域にひらかれる意義を再考し、そして学校がひらかれるための新たなチャレンジ事例を参加者で共有し、学校と市民社会や民間事業者がまさに“産官学連携”するため、議論する共創イベントです。

講演イベント

「地域にひらかれた学校」に向けての法整備や各省庁の方針、自治体における先進的な取り組みについてご講演いただき、最新の情報をキャッチアップすることができます。

講演① 地域共生社会の実現に向けた教育と福祉の連携

Speaker

南 孝徳氏

厚生労働省・社会・援護局 地域福祉課
生活困窮者自立支援室/地域共生社会推進室 室長

講演② 地域と一緒に "BE THE PLAYER"

Speaker

北市 康徳氏

加賀市教育委員会事務局次長兼学校指導課長

パネルディスカッション

テーマ：大阪スマートシティによる

学校と地域の新たなコミュニティ・ポテンシャル

スーパーシティ（国家戦略特区）に指定され、都市OSを活かした自治体DXの最前線となっている大阪府の取組を例に、データを活かした子どもの健全育成のためのポイントと気合、その展望について対談

Panelists

狩野 俊明氏

大阪府 スマートシティ戦略部 戦略推進室 戦略企画課 課長

瀬野 恭彦氏

NTT西日本 エンタープライズビジネス事業部 デジタルビジネス推進部門
デジタルプラットフォーム担当 スマートシティシニアアーキテクト

Facilitator

山野 則子 教授

大阪公立大学 現代システム科学研究科 教授

ディスカッション・ネットワーキング

「産官学」各領域を横断した参加者同士によるグループワーク
教育委員会や現場の先生、教育・福祉領域に特化した大学関係者、教育関連サービスを提供する企業担当者が一同に会するグループワークで、「現場のリアルな声」を聞くことができ、明日に活かせるアイデアを創出します！

次に繋がるネットワーキングタイムもご準備！

名刺交換はもちろんのこと、イベントやグループワークで話しきれなかった詳細な議論、情報交換をすることができます！

参加申し込みはこちら

3STEPで申し込み完了！

① QRコードを読み取り

▶②参加者情報を登録 ▶③登録完了！

参加費

一般参加：1,000円（当日現金支払）

※プラットフォーム正会員・賛助会員は無料



主催 大阪公立大学 現代システム科学研究科 山野則子研究室
こども未来創造プラットフォーム（スクールソーシャルワーク評価研究所内）



大阪公立大学

共催 一般社団法人こども未来社会研究所



一般社団法人
こども未来社会研究所

お問い合わせ先



gr-kyik-cfpf@omu.ac.jp

JSTRISTEX (社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)
「すべての子どもの社会的孤立・孤独・排除を予防する学校を中心としたシステムの開発」

大阪公立大学の山野研究室は、RISTEX「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」として、4年半にわたって、子どもの社会的孤立を予防する研究を行ってきました。本会では、スクリーニングシステム(YOSS)を利用した孤立の早期発見と、行政・福祉・民間企業の連携による支援の成果を共有します。

孤独孤立の予防 **成果報告会**

2026.2.17 木 10:30-12:00

場所：I-siteなんば (大阪公立大学)

<https://www.omu.ac.jp/isite/access/>

【内容】

- ・ データから見たYOSS活用の意義と要支援状態に至るプロセスの理解：橋本 慶和
- ・ 教育分野から見たスクリーニングの意義：池田 利基
- ・ 外国にルーツをもつ子どもと保護者の実態と課題：林 萍萍
- ・ 本研究の意義と展望～孤立孤独の政府の動きを踏まえて：山野 則子
- ・ 総括コメント：浦 光博氏 (追手門学院大学)

【お申し込み】 ※成果報告会のみzoom配信あり

URLまたは
QRコードから



<https://forms.office.com/r/2qbCURTSRT>

【お問い合わせ先】

大阪公立大学 現代システム科学研究科
山野則子研究室
TEL/FAX (直通) 072-254-9783
Mail gr-kyik-cfpf@omu.ac.jp

【同日開催！】
教育/福祉業界の産官学 連携プラットフォーム

13:00～16:30

こどもの未来共創サミット2026 冬

～こどものためにつながる：学校と地域・企業～

プログラム・趣旨は裏面へ

子どもの権利から見た

あるべき教員養成カリキュラム

改正とは

2026年

3月8日 (日) 13:00~17:00

日本が国際連合の「子どもの権利条約」を批准して30年以上たちました。2022年に制定された「こども基本法」にも子どもの権利が謳われています。しかし、現行の教員養成カリキュラムの中に、子どもの権利についての言及はありません。すべての教員が子どもの権利を正しく理解し、学校現場にてそれを体現するためにはどうすればよいのでしょうか。

本シンポジウムでは、現行規定の課題を論じた上で、教員養成における子どもの権利に関する教育実践を紹介し、教員養成カリキュラム改正のあるべき方向を考えます。教員、研究者、メディアなどたくさんの方のご参加をお待ちしております。

趣旨説明 阿部彩 (東京都立大学 ※1)

司会 西希代子 (慶應義塾大学 ※2)

第一部 (13:10~14:10)

教員養成カリキュラムにおける
「子どもの権利」教育

第二部 (14:25~15:20)

教員養成カリキュラムにおける
子どもの権利教育の実践

教員養成カリキュラムの現状と展望

勝野正章 (東京大学 ※1)

教職入門における権利を学ぶグループワーク

宇野由紀子 (愛知大学)

「子どもの権利」を学ぶ「『生きる』教育」

西岡加名恵 (京都大学 ※1)

特別活動論における意見表明・参加の権利への
アプローチ

大日方真史 (三重大学)

予防的生徒指導と子どもの貧困

山野則子 (大阪公立大学 ※2)

4年間を通した子どもの権利学習の試み

安部芳絵 (工学院大学 ※3)

ラウンド・テーブル・ディスカッション (15:20~16:30)

申込はこちら ▼

締切：3月7日(土)

会場

ZOOM申込 ▶



https://us06web.zoom.us/join?register/S1_0kHRURRYHwUp_uK7Gf3A#/registration

対面申込 ▶



<https://forms.gle/wscwzpm1bydtZF2h9>

全国教育文化会館エデュカス東京 大会議室
(東京都千代田区二番町12-1)

※オンライン参加の方は必ず期限までにお申込みください。
※会場参加の方は当日参加も可能です。
※Webサイトからも申込可能です。

※1：日本学術会議第一部会員、※2：日本学術会議連携会員、※3：日本学術会議連携会員（特任）

主催：日本学術会議社会科学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・法学委員会・経済学委員会合同子どもの権利保障分科会

共催：文部科学省科学研究費 学術変革領域（A）「貧困学の確立」（JSPS科研費22H05097 研究代表者：阿部彩）

問い合わせ：事務局（東京都立大学子ども・若者貧困研究センター 阿部）

Webサイト：<https://poverty-research.jp/260308/>

abeken@tmu.ac.jp (042-677-2126)